いの流水俳壇

「大國様吟詠」「当季雜詠」

特選

御手洗に風を集めている風鈴

刈谷 志津選

東谷 晴男

〔評〕9月2日、恒例の「いの大國さま」での句会を榎本神社の儀式殿を拝借して行った。千二百年という長い歴史に感動し、「いの町」の誇りである大國さまが「福の神」「恵みの神」「守り神」として永久に御座しますことを念願し参道を進むと、鯉の池に続いて御手洗（参詣者が手や口を浄める所がある）。そこでまず目を引き思わず立ち止まった。風に揺れ合う数個の風鈴の音、昨日までの厳しい残暑、当日は涼しい秋風が吹き渡る快晴の秋日和。この風を得て鳴り続く風鈴の音は歓迎の拍手となり、我々を迎えてくれた。作者は「風を集めている風鈴」と詠んだ。この借辞により風鈴の（吸引力）と（存在感）また、目には見えない風の大きき、威力までが見える。洗練された表現力で爽やかな宮の光景が輝く秀句。

秋気満つ神泉の鯉華やげり

植田 紀子

〔評〕「秋気」とは、秋の清く爽やかに澄み切った空気の感触を言う。「神泉」は神域にある泉の事で、大國さまの池の水は、大國の杜からの湧き水と聞いている。水の豊かな「いの町」は昔、紙漉きの町として栄えたほど豊富な水の町である。秋となり、鯉の動きも活発になり優々と泳ぐ鯉たち。近づく足音で皆寄ってくる。真鯉に緋鯉、小さな稚魚、大小の鯉が群れ遊ぶ。わけでも色鮮やかな緋鯉が浮き上がると、遠目にもはつきりと見え、まるで神域に咲いた佳麗な花のよう。杉の大樹に包まれ深閑として、おごそかな境内の風情を美しい鯉により、華やかに詠み上げた献上の一句。

振り向けば元の道なし芒原

竹崎たかひろ

〔評〕芒は近郊に出るとどこにでも見られ、一叢となり生い茂る。秋になると2mほどに成長し、尾花を穂状に咲かせる。花穂が獣の尾に似ているので尾花とも言う。また秋の七草の一つで、お月見に

はなくてはならない草である。揚句は「元の道なし」とずばつと言いつきり切らさずが伝わる。振り向くと、今来た道が見えない事に気付く。広々とした芒原の中で見た驚きの景色。身の丈ほどもある「芒原」が、折からの風に吹き倒れ、小さな草小道を塞ぎ、道が見えなくなつてしまった。風が止めば道は元に戻る。道が塞がった瞬間を捉え、「芒原」で出合った不思議な風景を洒脱に表現している。

入選

町の名は「ひらがな」二文字水の秋

鶯舞ふいのは紙漉く虚子の句碑

鈴の緒のひとり揺れけり秋の風

秋の空つらぬく程に神の杉

秋天や神前写真撮る二人

幾そ度玉砂利静め法師蟬

神木を撫でゆく風の爽やかに

みな仰ぐ小賀玉大樹秋の空

秋の風宙より降りて杉木立

月宮殿三柱の神舞い上がり

一粒の新米拾ふ母の声

神ありて紙の町なり秋高し

法師蟬声吹かれる風杜

参道に鯉の池あり涼新た

一句抄

風は秋遊びごころの恋みくじ

中吉のみくじを枝に秋まつり

振り返る少女の頬に秋の風

神木の梢に聞こゆ秋の声

小賀玉の木の実ゆらして風日和

大國の杜さやさと竹の春

次題「当季雜詠」

締切/毎月1日

投句先 教育委員会事務局

いの町1700-1 ☎893-1922

今月のごども川柳

雨あがり 虹も笑顔も きれいだな

川内小 5年 市川 あい

〔評〕雨あがりの空にかかった美しい虹と、それを見上げている人たちの笑顔が川柳の中にとおり表現されていて、その時の感動が伝わってきます。すてきな川柳になりました。

走ろうよ 今は秋だよ 運動だ

伊野小 6年 割田 紗矢

〔評〕子どもたちにとって勉強することは大切なこと。それにはまず健康。秋は体をきたえる絶好のチャンス。スポーツの秋です。みんな元気に走りましょう。

運動会 走って踊って 筋肉痛

伊野南小 6年 伊東 沙起

たいようにに 手をのばしたら とどろかな

枝川小 2年 濱田 夢芽

夏がきた 太陽にっこり わらってる

伊野小 3年 森岡日菜里

食べたいな カツオのタタキ うまそうだ

伊野小 5年 森木 悠人

毎日を キラキラさせる 笑い声

伊野小 5年 中村 結菜

その笑顔 元気をくれる 宝物

伊野小 6年 西村 聖菜

耳すまし 夜風と虫が 秋はこぶ

伊野小 6年 毛利 斗翔

あいさつは 魔法の言葉 笑顔咲く

伊野小 6年 尾崎有央以

「ごども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは11月10日(金)です。たくさんの方の応募をお待ちしています。(応募は各小学校を通じてお願いします。)

※選評は、川柳連会の皆さんにお願いしています。